

## 定信紀行

第五話

江戸深川海荘のこと

寄稿 市文化財保護審議会委員

佐川 庄司

東京都江東区白河の靈巖寺には、松平定信の墓所がある。「白河」という地名は定信墓所にちなんだものである。

同じ江東区深川には定信の抱屋敷「海荘」があった。定信が定永に家督を譲った後の文化13年（1816）に深川入舟町（江東区牡丹・古石場）の地を取得し造営した。邸内の建物の名から松月齋庭園とも呼ばれ、広さ千坪余で、江戸湾を泉水に見立て、富士山や羽田・品川沖、そして房総鋸山まで眺望することができたという。

庭の中央に松月齋と名付け



▲深川松月齋全図（国立国会図書館蔵）

られた建物、その周りには海水を取り入れた汐入の池があり、中島には和歌の神として尊崇された柿本人麻呂像を安置する社があった。海岸には塩田と塩焼小屋が設けられており、後の移封先である桑名藩での製塩に役立ったとされる。

定信は、ここに普賢象という極めて遅咲きの桜を植栽し、築地浴恩園から花見を始め、次いで大塚六園、世の桜が散る頃に海荘が花盛りを迎えるように工夫を凝らし、浴恩園から小舟で海荘に渡し、中国の詩人陶淵明「桃花源記」の桃源郷に海荘を見立てたとされている。

図には、桜の他に芍薬、琉球躑躅、蘇鉄、楓、百日紅なども描かれている。

● 観光課  
☎ 5526

## 白河かるた 札でつながる今・昔



五枚目「ビヤッコイ」



ひっそりと  
ビヤッコイ息づく  
表郷

ビヤッコイは、表郷小学校の北側にある林の泉に自生しているカヤツリグサ科ビヤッコイ属の水草で、8月から9月頃に花を咲かせます。

ビヤッコイは漢字で「白虎蘭」と書き、戊辰戦争時の白虎隊にちなんだ名前となっております。

これは、1900年頃に表郷で発見され、福島師範学校を經由して植物学者である牧野富太郎に渡った際、白虎隊の古戦場である岩代国戸ノ口原（現会津若松市）での採取品として伝えられたため、その名が付けられたと言われています。

かつては栃木県大田原市にも生育していたとされますが、今日、国内で確認で

きるのは表郷のみです。近縁種が南半球のオーストラリア、インドネシア、パプアニューギニア、ニュージーランドに分布しています。現状北半球では、表郷だけで確認されています。

自生地は県の天然記念物に指定されていますが、近年は周辺環境の変化に伴い生育範囲が減少しており、環境省レッドリストでは、絶滅の危険性が極めて高い「絶滅危惧ⅠA類」に分類されています。

希少な植物であるビヤッコイは、絶滅の危機にひんしながらも、北半球の片隅で静かに息づいています。

● まちづくり推進課  
☎ 5533

お知らせ

ラウンジ

りづらん

子育て情報

保健情報

くらしの  
情報館

定信紀行

白河かるた

休日当番医・  
無料相談ほか

市長の  
手控え帖